

皇太子の結婚（93・3・12）

村尾清一（昭17・文丙）

昭和17年の10月に半年短縮して三高を出ました。カナダ大使の大川君とか中国大使の中江君とか芥川賞作家の古山高麗雄とか、新潮社の野平君とか、自治省にいた山中君とか故鈴木常夫君とかのクラスです。文丙ですからフランス語をやりまして、私は東大の法学部を出て、すぐに読売新聞に入りました。実は、朝日・毎日・読売を受けて運よくみんな入れたのですが、朝日新聞に行ったら丁度、門田勲さんという三高の先輩が編集局次長で、13人受かった全員を地方にやると言ったので、私は若気のいたりで地方に行くのはいやだと言ったら「君だけ一人そんな事を言ったらだめだ」、「じゃ私は辞めます」と言ったのです。で、読売新聞に行って私は東京にいるのでなければ、新聞社に入らないと言ったら、社会部に入るのなら東京に置いてやる、と言うので読売新聞社会部に入りました。

私は軍隊から帰って又、大学に行きなおしたのですから昭和22年に卒業出来たのですが、その

時には新聞社の募集が全然ないんです。産経だけはありましたが、昭和23年の春に新聞社の戦後初めての正式入社試験があって、それを受けて入った訳です。入ってすぐに天皇陛下の、本当は三番目なんですけど二番目の皇女、孝宮（鷹司和子）さんが、民間の百武三郎という元海軍大将の家に行儀見習いに行くその取材に行った事があります。それからずっと何か皇室の事があると「行け」と、言われるようになりました。

私たちと同期に牧君という三高の理科を出た友人がおりまして、その人の姉さんが内親王の教育係でした。また私は高松中学出身ですが、高松に明善高等女学校がありまして、その山川校長の息子さんの未亡人が、牧君の姉さんと一緒に呉竹寮でやっぱり皇女たちの教育係をやっていたのです。名取さんという人がトップにいて入江侍従（後の侍従長）もよく顔を出していました。みんな昔の東京女高師（現お茶ノ水大学）卒でした。

22、23年頃は占領軍が皇居を管理していても自由だった。坂下門から入って行って呉竹寮へ入って行ったら、内親王が裏庭で縄飛びをしているそんな風景さえ見られました。で、私が牧さんとか山川さんと夜遅くまで話して、「もう今日は遅くなつたから泊っていらっしやい」と言われて呉竹寮に泊めてもらって翌日帰るといふ自由な雰囲気でした。皇居が日本に返えされて、GHQの管理から皇官警察が管理する様になってから、だんだん厳しくなつて来ました。

なんか縁があったのか、私は戦争中に結婚した照宮（東久邇成子）さんを除いた方々の結婚式

に全部参列する機会を得ました。今の天皇陛下と正田美智子さんのご結婚式が昭和34年の4月、皇居の賢所であった時も出席しました。天皇・皇后はお子さん方の結婚式には出席しないという現代では不思議な習慣が今でも行われています。15分の短い式でした。賢所は内陣と外陣があって、皇族は外陣で結婚式をやって、皇太子は内陣で結婚式を挙げる訳です。その奥の内々陣に三種の神器がまつてあるのです。民間のように三々九度の盃はなく、お二人は並んでただ御酒を飲むというだけなのです。その時、立会った掌典長の故甘露寺受長氏おきながに聞きますと、皇太子は妻を得た喜びを天地の神々に感謝するため、立ったり座ったりするのだそうです。平安時代の服装で皇太子は赤味を帯びたオレンジ色の衣服、美智子さんは十二単衣で、とても華やかでした。四月というと皇居の桜が丁度満開で、桜の花びらがはらはらと散る中で王朝風の儀式が静かに展開されるのでした。これと同じ結婚式が浩宮さんと雅子さんの結婚式で、きたる平成五年六月九日に予定されています。雅子さんのお后教育が今日（3月12日）から始まります。美智子さんの時より期間が短縮されます。フランス語とか語学の方は雅子さんはよく出来るのでそれらを省いてしまつて、皇室のいろんな儀式の事とか習慣とか、憲法の話とか、皇室典範の話等だけですむからです。お妃教育は一ヶ月半位で四月中旬に終わります。その間に「告期」、民間でいうと結婚の日取り、「納采」、民間の結納があつて、六月九日に結婚式があると、いう段取りです。

今年、平成五（一九九三）年一月六日の夜の8時45分に皇太子さんと小和田雅子さんの婚約が

内定したという事が発表されました。マスコミの報道によると随分前から知っていた様に書いてあるんです。私が宮内庁担当の記者をした経験で、今の陛下のご結婚のときも、随分前から知っていた様な事をマスコミは知っているけれども、今度も本当に知ったのは恐らく一月の六日の直前だったと私は思います。皇太子さんは18才で成年に達するんです。普通の人より二年早い。その頃からぼつぼつ結婚の事を言われだして、記者会見のたびごとに結婚の事を聞かれて、浩宮さんは理想の女性像を年々のべる訳です。そうすると、どういう人と言うかと初めは明るくって、スポーツが出来る人と言っていました。結局自分の考えを持っていて、自分と同じ価値観を持っている。金銭感覚も余り贅沢な人は困る、ニューヨークのティファニーで買物したがったりする人は困る。語学も出来て音楽も分る様な人がいいと、だんだん理想像が、エスカレートしました。だけど、現実になんな人が誰れかいますかと問われますと、誰れもないのです。そんな様な状態が続いていました。

今から七年前、昭和61年の10月に赤坂の東宮御所でスペインの王女の訪日歓迎パーティを催した時に、外務省の人をよんだのです。その時に当時の中川さんという外務省の幹部が「小和田君きみの娘さんは外交官試験も通っているのだから一緒につれてきたらどうだ」と言う事で小和田氏が雅子さんを連れて行ったのです。と、東宮大夫をやっていた安嶋弥氏（元文化庁長官）に聞くと、「その時に殿下を紹介しようと思ってみると殿下はもう雅子さんと話をした」というん

です。それから団藤重光さん・東大の刑法、刑事訴訟法の教授で、この人も東宮御所の顧問だったので聞きますと、僕の日記を見ると、「一際目立ったきれいなお嬢さんがいたので聞いたらあれは外務次官の小和田さんの娘さんだと言われた。」と書いてあったそうです。その頃からかなり目立ったんですね。それが初めての出会いで、其の後、色々宮内庁のリストに小和田さんも入って、学習院関係とか聖心関係とか雙葉関係とか、いまの陛下の友達の関係とか、いろんな所から絞ってその中に小和田さんの名前が入ったのです。で、調べたら母方のおじいさんの江頭豊さんがチツソの会長だったのがひっかかったのです。その頃はチツソの公害は最大の問題だったので、それが大きな障害になっていたのです。それで一時は駄目になったとされました。が、団藤さんの話によると翌年の62年に浩宮さんから「チツソ問題がある以上はどうしても駄目ですか」と真剣に尋ねられて「法律的には問題はありません」と答えたそうです。その頃、稚子さんは皇太子妃候補のリストから落ちてたようです。其の後、稚子さんはオックスフォード（ペリオール・コレッジ）に行つて二年間留学したりしていたんです。

其の後、一・二人これはという候補を絞っていたらしいけれども、どうも浩宮殿下は気乗りがしない様子です。それで昨年の八月に千代田区の柳谷謙介（外務省）さんの家で、小和田さんと再会したんです。10月に市川に宮内庁の鴨場があるんですが、各国大使を招いて鴨猟を催します。鴨を川淵に導き入れて鴨が飛び立つ時に堤で「さでアミ」を使って鴨を捕る。傷つけずに捕

れるんです。私らも新浜獵場で何度か鴨を賞味する機会がありました。鴨場へ小和田雅子さんを招いて皇太子さんはそこへ出かけた。その時には東宮御所の警察もお付の人も知らせないで、こっそりと行かれたそうです。その時に初めて小和田さんにプロポーズされたそうです。それが10月3日です。其の後いろいろといきさつがあつて雅子さんがOKを言ったのが10月12日で、陛下に雅子さんを紹介したのが12月25日のクリスマス夜の夜だそうです。だからそれ以前から知つてた様にマスコミが書いておればおかしいことですね。25日に初めて紹介した。その日は宮内庁が恒例の記者会見をやつて、宮内庁がいわゆる「三味線を弾く」訳ですよ。

皇太子さんのお后については書かないと、一年前からマスコミは協定している。その協定が一月で期限切れになるのです。宮内庁側は、それを「二月以降も又、協定を延ばしてくれますか」ともちかけたといひます。本当は決まつた段階なのにマスコミの目をくまらず作戦です。ある新聞社は「これは怪しい」と思った。そこで夜、パーティが終つてから宮内庁の幹部の所に行つたら「実はね小和田さんだよ」と秘かにもらしてくれたい訳です。それで大変だと、今まで宮内庁記者クラブの部員は、その社は四人だったのを十一人に増やして猛烈な取材を始めた訳です。新聞社によつては1月6日の午後2時まで知らなかった社もあるそうです。と、言うのはどうも小和田さんらしいと聞いても、要するに皇室会議が1月19日だというその確認が出来ない。そういうのはむしろ政府・自民党方面から取らなくつてはいけなない。だから新聞社の取材網は侍従や宮内

庁の連中、皇宮警察、警察、学習院など学校関係それから閣僚、そこまで網をはっている訳です。はつきり言いますとY紙の場合は鴨場を捕まえたのは皇宮警察方面からではなかったそうです。別の方から入った情報で張り込みに行ったのです。で、そこへ行ったら雅子さんがいたのでびっくりしたのです。宮内庁側のものすごい隠密作戦です。それでも結局めでたし／＼となったんです。

要約するとお二人は六年前に初めて会って一年後、調べてチツ素関係で駄目になり、それが皇太子さんのご意志で復活して、昨年の夏からばた／＼と進行し、12月12日OKの返事をもらって、12月25日、両陛下にお会いになって、決った。そういういきさつです。浩宮さんは前から「結婚は30才前がいいですね」と言っておられました。大変慎重なご性質なんです。浜尾実さんという小さい時から浩宮さんを育てた侍従がいるんです。東大総長の息子さん、あの人が育てたナルちゃん憲法があるんです。美智子さんがこういう風に育てたいという教育方針があるんです。できるだけ一つのもので遊ばせる。「ながら病」をさける。一日に一回ぐらいしつかりと抱くことなど。皇太子「ナルちゃん」は本当に慎重で、ジャングルジムなんかは普通の子供なんかはすぐに登って行くが、徳仁親王（なほひと）はじつと30分位見えていて大丈夫だとわかったら登る、と、小さい時からそうだったそうです。だから平原毅さんというイギリスの大使をしておられた人の話では、オックスフォードに留学する為にロンドンに着いたとき、大使館でロンドンに今着いたという事をご

両親の陛下に電話なさったらいかがですかと言ったら、ニュースやいろんな事で知っていると思いますから電話の必要はありませんという。それ位質素です。それからごく最近、平原氏が勲一等をもらったので、そのパーティが帝国ホテルであったのですが、その席に外務省の幹部が来てるんです。その時来ていた柳田謙介さんが言うのには「平原君の手柄はイギリス大使時代にゼいたくっていうものはいいものだ」という事を浩宮さんに教えたことだ」と逆説的に言っております。ロンドンのオックスフォードストリートやポンドストリートなどの店へ行って浩宮さんが、母君や妹さんにおみやげを買うとき、値のほらないスカーフなどを買うのです。こういう時はブランド物の方が喜ばれると平原さんが教えたことを言っているのです。その位、天皇家の人々は質素だということです。大体、京都の人は「しまつ」ですね。(笑)

浩宮さん、大学は文学部に行つたけれどもどちらかと言えば理科系統の人です。理科系統の頭を持っていきます。昭和天皇も生物学で顕微鏡をのぞくのが好きでした。今の陛下もハゼの研究をやつていて私は赤坂御所で見せてもらいましたけれども、各国のいろんなハゼの標本や実物があり、私が行つた時には、オーストラリアにある世界に一つしかないという標本まで借りて来てました。今の陛下のお話では浩宮は地理が好きなんです。地理学は理科です。「道」が路のことを調べるのが好きだそうです。どうして道路が好きなのかと私は前に陛下に伺つてみたのです。そしたら次のようなことが分りました。

赤坂御所や皇居は昔、お寺がいっぱいあって厚木街道が通じていた。それがずうと鎌倉の方に行く道でした。それで赤坂御所などにいるとどこまでも続いている道路に対してすごくあこがれるらしいのです。浩宮さんが学習院時代、一番興味をもたれたテーマが「中世の瀬戸内海の交通」で、それが卒業論文になりました。それに関連して室町時代の頃の古い文章があって、例えば讃岐（香川県）からは砂糖、備前児島（岡山県）からは塩と米とが特産品を京都へ運んだのです。みつぎ物として。それらの物産とを全部書いた資料が今、千葉県佐倉市の民俗学博物館に現物があります。それを見てさすが天皇家の人だと思います。その貢物が全国からどういう形で、どうやって来るのか浩宮さんが興味を持っていたのです。それを論文にしたのです。今の陛下が以前、宮内庁のお后記者を呼んでくれた事があつたんです。その時に共同通信社の社長になっている犬養康彦君なんか「記者時代には追いかけてまわしてすみませんでした」と美智子さんに謝っていました。で、部屋にはピアノや楽器が置いてあって、学名「サヌカイド」という讃岐石、たけばカンカンとなるので「カンカン石」ともいうのですが、これで作ったシロホン、ザイロホン、あれなんか置いてあります。ご一家はこれらの楽器で音楽をやっていたのです。美智子さんがハープやピアノを奏し、浩宮さんはバイオリン、ビオラを弾くというふうにみんなが音楽をやるのです。

さて、話を戻しますと、浩宮さんは瀬戸内海に調べに行くんですよ。例えばその物産はどうし

て京都に運んだのか、船で運んだのか、牛で運んだのか、馬で運んだのか、それを調べに行くんですよと殿下が言われたので、殿下に「瀬戸内海だから船だと思います」と言ったのです。瀬戸内海の沿岸には馬は殆ど使わない。牛は農耕に使う。恐らく船ですと京都伏見まで、当時伏見まで船が行けましたから、大阪湾を逆上って伏見まで運んだんだと思いますと私見を述べました。そういうふうには浩宮さんは地理・特に中世の運輸事情に興味を持っておられる。ロンドンに行った時もロンドンに於ける中世の運輸事情をテーマに持っていったのです。所が中世というといギリスは英語で書いた文書がないんです。英語で書いた書物はシェークスピア以後で、それ以前は全部ラテン語で書いてある。ラテン語を始めから習うのは、大変時間がかかるので、テーマを変えて「近世におけるテムズ川の水運の役割について」にしたのです。本当は中世を研究したかったです。「テムズ・アズ・ハイウェイ」の題で研究をまとめたのです。文献だけで積み重ねると一メートル以上あった物を読んで二年間でまとめたのです。

だからどちらかと言えば、浩宮さんは理科系の人でプロセスを大事にする慎重な人で、語学が出来る人、そういう方ですね。今の陛下はなかなか才気煥発なところがあります。貞明皇后、昭和天皇のお母さん、あの方が才気煥発な方でした。人に会うと「あなたのお嬢さんとも卒業がなさったのか」と、そういう質問するものですから皆な感激するんです。それはトラの巻があつて拝謁に来る人がいると、侍従や大宮御所の人たちが、この人はこういう経歴で子供何

人というメモを用意したそうです。そういうところが遺伝して、昭和天皇のお子さんの中では島津貴子さんと一番上の故照宮さんが、人をそらさぬ所を持っています。ツーと言えばカーと響くんです。そして今の陛下もそういう所があります。昭和天皇はどちらかと言えば学者タイプですね。それは子供の時から乃木大将や東郷元師や杉浦重剛や、そういう人々が教育に携った事実があります。それに何と言っても明治生れの人です。悪くいえば、現代的でない面もあるかもしれません。よく言えば明治のバックボーンをもっておられました。

昭和天皇が60才の還暦を迎えられた時に記者会見があつて、私が初めて昭和天皇に伺つたことがあります。「今までの60年の生涯で一番楽しかつた事は何ですか」。すると昭和天皇は「20才の時にイギリスに行った、その時にバッキンガムの宮殿でジョージ五世が三日間泊めて、後のエドワード八世になつた英国皇太子と一緒に立憲君主のあり方を手に取つて教えてくれた。閣僚がこうして来た時にはどうするとか。それで自分はイギリスのジョージ五世を「第二の父」と思つていると言われました。そしたら当時の三谷隆信侍従長があわてて、「第二の父」のことは、オフレコにしてほしいと言うのです。日本の天皇がイギリスの国王を第二の父だと言つたら、さしさわりが起る恐れがある。これは書かないでいただきたいということでした。そこで「第二の父」の言葉は書かなかつたのです。だけど若き日の欧州旅行で一番うれしかった事、一番心に残る事は、ジョージ五世が教えてくれた事だとはっきり言われました。日本の皇室がイギリスに対

する思い入れは色々理由があります。

明治維新の時、幕府はフランスから、天皇方はイギリスから色々助けてもらった。それから日英同盟。日露戦争の時に同盟国として英国から色々助けてもらった。そういう事もあったけれど一番大きい理由には、皇室の在り方の問題だと思えます。「君臨すれど統治せず」という在り方である。国家元首として実際の統治権や軍事の権利を持たない。それがずっと続いて来たから天皇家も英国王室も続いてきました。日本では「象徴」、イギリスでは今ははっきり言うと「中産階級の家庭のサンブル」です。それが去年はアン王女が離婚するし、チャールズ皇太子はダイアナ妃と別居。アンドルー王子もセーラ妃の不倫がわかるし、ウインザー城は焼ける。昨年暮にはエリザベス女王が「今年はひどい年だ」、それを「アノ・ホリビーンリス (Anno horribilis)」とラテン語で言われたのです。

世界の国家一九〇ヶ国の中で君主を持っているのが25ですか、アフリカの新興国の中でも二ツ、三ツ君主国が来ています。第一次、第二次世界大戦で22の王朝が倒れたんです。ロシアのロマノフ王朝、ドイツのフォーフエンツォルレン家とかオーストリア、ハンガリのハプスブルグ家、トルコのスルタン家とかギリシャ国王など世界の王室が全部なくなっても、「トランプのキングとイギリスのキングだけは残る」という有名な言葉があるんです。イギリスは非常に伝統的な実利主義の国でフランスの様に理論では動かない。理性のままには動かないのです。ちゃんと伝統

と進歩、理想と現実の利益とをうまくアレンジして生きて行く国民ですから、そういう国で日本の皇太子は非常に自由な生活をして来られました。徳仁親王は學術論文とは別にオックスフォード（マートン・コレッジ）にいた時代の回想記「テムズとともに英国の二年間」という本をこの春、書かれました。それは学習院の教養新書の形で発刊されましたので、今は一般の人の手に入りにくいのです。（注、七月から一般に販売されました）

オックスフォードに二年間いる間に最初は語学に慣れるためにホール大佐の家に三ヶ月程下宿していて、それからマートン・コレッジ（皆さんご存知のようにイギリスではカレッヂではなくコレッジ）にいて、そこで寄宿舎に入りました。二部屋の一つは勉強机があつて、一つはベッドがある。その壁にアメリカの女優のブルック・シールズの写真が貼つてあつたのです。外出の時にはジーンズなんです。だからロンドンの盛り場を歩いていると、觀光で来た日本人の女の子にパツタリ会うことがある。ジーンズの皇太子に会つた日本の女の子は立ちどまつて「ウツソ」と声を出さずんです。浩宮さんが後で、日本の女の子が私を見ると「ウツソ」というんです。が、どういう意味ですかと聞くんです。皇室の中で酒が一番強いのが浩宮さん、明治天皇が酒豪だった遺伝かもしれません。昭和天皇は少年時代に甘酒を飲んで苦しくなつてから一滴も飲まなかつたのです。浩宮さんは明治天皇に似て強いですからロンドンのパブ（大衆酒場）なんか、自転車で3軒位はしごするのです。行つて「ビア」と言うとバーテンが変な顔をするんです。パ

ブでは「ハーフ・パイント・オブ・ビター」とか「ワン・パイント・オブ・ラガー」とか種類と量を指定しなければいけないのです。パブではそんなことまで学んで、オックスフォード生活に慣れてこられたのです。英国人の友達が出来て日本語を教えてくれと言うので、いろんな事を教えるんです。「ユア・ハynes（殿下）」を日本語で何と言うのかと、「殿下」だと教えた。そしていろんな物の名を日本語で教えた。部屋の電灯を指して「これは何だ」と聞くので、「電気」だと教えた。すると、英国人の学友は殿下を呼ぶ時に「デンキ」と呼んだり、「電気、殿下を消しなさい」とか、間違ってたか、わざとか言うそうです。ただこの話は殿下の本には書いてありません。昭和49年に現陛下と美智子妃殿下がヨーロッパに行った時に、留学していた浩宮さんに会った訳です。その時にオックスフォードのマートン・コレッジの学長が、殿下の勉学状態について食事しながら色々話したんです。その時「いい成績だ」と言ったと新聞は報道したのです。ところが英語のよく出来る美智子さんが、後で「浩宮が勉学がよく出来ると言ったのではない、勉学態度がいいと言っただけです」と訂正されて、浩宮さんは苦笑したそうです。そういう様な事で英国では日本では味わえない青春を楽しんで来られた。「それも『両親』のお陰だ」と浩宮さんは書いておられます。

今迄は必ず『両陛下』のお陰だと言わなくてはならなかったのです。だからこの間の小和田さんとの話を聞いて、一度だめになったのはチツソの問題があったからだという様な事を、はつき

り殿下もおっしゃった。あの時私が思ったのは、小和田さんも非常に理性的でできばきしていて、昔の古い考えの人ならあんな事まで言わなくてもいいのにと思う位はつきりと答えました。ただどあれはよかったと思いました。

いま、マスコミは皇室について報道するとき、スタイルブックを作り、色々敬語を使っています。「皇太子さま」、「美智子さま」などという表現が用いられています。

けれども、宮内庁の「うち」、つまり陛下の側近の人々は、「陛下」を「お上^{かみ}」、「皇太子殿下」を「東宮^{とうきゆう}さん」とか、「さん」だけでよぶのが、京都からの慣習です。「さま」というのは、関東のサムライ階級の言葉のニュアンスが強いので、ここではわざと、「皇太子さん」、「雅子さん」という京都風の表現を使い、敬語も省きました。

この話をしたとき、皇太子さんと雅子さんのご結婚式が一九九三（平成五）年六月九日に決まったことは、まだマスコミでは報道されていませんでした。しかし、オフレコで話しました。

（日本エッセイスト・クラブ理事長・元読売新聞社取締役）